

News Release



焼津水産化学工業株式会社

会社名 焼津水産化学工業株式会社
代表者名 代表取締役社長 山田 潤
コード番号 2812
上場取引場所 東証1部
本社所在地 静岡県焼津市小川新町五丁目8番13号
静岡本部 静岡県静岡市駿河区南町11-1 6F
TEL054-202-6030 FAX054-202-6031

梅雨時から夏にかけて痛風発症にご用心！

痛風・高尿酸血症患者888名に尿酸値管理について意識調査を実施

当社は、今年3月に痛風患者受診数日本一の両国東口クリニック(東京都墨田区、理事長：大山博司医師)と共同で「尿酸値管理の意識調査」を実施しました。この調査は、同クリニックの痛風・高尿酸血症患者の男女888名(20歳代～80歳代)を対象に当社初の試みとして行ったものです。

日本国内の痛風患者は年ごとに増加、年間約125万人が痛風を発症しています(2019年、厚生労働省「国民生活基礎調査」)。中でも梅雨時から夏にかけて気温の上昇やアルコール飲料の摂取量増加により、痛風の発症が大幅に増えると言われていました。さらに、昨年から続くコロナ禍の在宅勤務や自粛生活による生活習慣の変化に伴い、痛風発症や悪化が懸念されています。現在、痛風予備軍の高尿酸血症者は推定1,100万人を超えていると言われていますが、これまで痛風・高尿酸血症患者の尿酸値管理意向に関する薬以外での明確な情報はありませんでした。

< 調査結果概要 >

尿酸値管理のために摂取したい機能性食品は「飲料」

尿酸値管理のため機能性食品を摂取する場合、清涼飲料、青汁・野菜飲料での摂取意向は57.3%(うち青汁・野菜飲料は46.8%)となりました。今回の調査で、飲料や食品での摂取を希望する方が多いことが明らかになりました。痛風・高尿酸血症の治療において、両国東口クリニックでは一日2Lの水分摂取と積極的な野菜の摂取を推奨しており、飲料(青汁・野菜飲料を含む)の機能性食品の摂取を望む声が多くなったと考えられます。

痛風・高尿酸血症治療中でも半数以上の方がやめられない習慣は「飲酒」

痛風・高尿酸血症治療中でもやめられない悪習慣は、飲酒62.6%、運動不足28.8%。改善困難な医師のアドバイスは、食事改善29.5%、飲酒量・飲酒頻度の低下24.1%、運動量・運動頻度の増加23.5%となりました。痛風・高尿酸血症患者は30歳代から50歳代の働き盛りの男性が多くなっており、付き合いでお酒を飲む機会が多い方や、運動する時間が確保できていない方が多いようです。

痛風・高尿酸血症以外の健康上の悩みトップは「血圧」

痛風・高尿酸血症以外の健康上の悩みは、血圧23.0%となりました。一般的に高尿酸血症は高血圧との併発が多いことが知られています。尿酸値はメタボリックシンドロームの先行指標とも言われており、尿酸値管理を行うことでメタボリックシンドローム、ひいては生活習慣病の予防につながります。

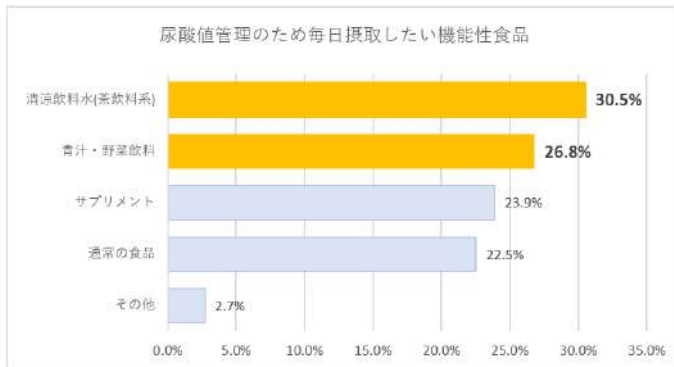
当社は尿酸値の上昇抑制に効果的な役割を果たす機能性食品素材「アンセリン」を製造・販売しています。今回のアンケートをもとに皆さまの健康的な生活に貢献できるよう、製品開発および営業活動を推進してまいります。

本件に関するご照会先：経営企画部 中島 TEL 054-202-6051

痛風・高尿酸血症患者の尿酸値管理の意識調査 <アンケート結果>

① 機能性食品で尿酸値管理をする場合の摂取意向

機能性食品で尿酸値管理をする場合の摂取意向において「尿酸値管理のために機能性食品を毎日摂取するとしたら、どれが一番よいと思いますか?」との質問に対して、「飲料」と答えたのは57.3%(飲料のうち青汁・野菜飲料は46.8%)、「サプリメント」は23.9%、「通常の食品」は22.5%となり、飲料での摂取意向が高いことがわかりました。



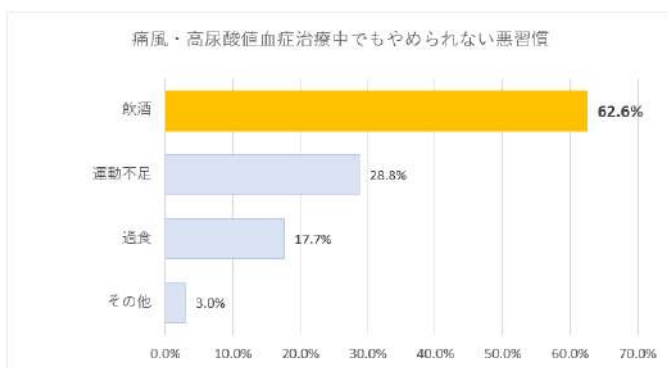
複数回答可；N=888、有効回答数=945

サプリメント以外にも飲料、食品での摂取意向が明らかになり、今後のこれらの商品化に期待します。痛風・高尿酸血症の治療において一日2Lの水分摂取を推奨しており、飲料で尿酸値管理ができれば一石二鳥です。また青汁・野菜飲料であれば、尿のアルカリ化による尿酸排せつ促進効果も期待でき、さらに尿酸値管理に効果的です。

(大山博司医師(両国東口クリニック理事長))

② 痛風・高尿酸血症治療中でもやめられない悪習慣

「痛風・高尿酸血症治療中でもやめられない悪習慣は何ですか?」との質問に対して、「飲酒」と答えたのは62.6%、「運動不足」は28.8%、「過食」は17.7%となり、痛風・高尿酸血症の治療に悪影響と知りながらやめられない悪習慣が浮き彫りになりました。



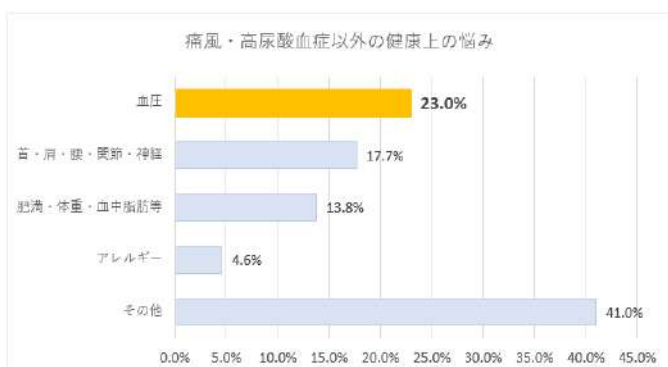
複数回答可；N=888、有効回答数=996

痛風・高尿酸血症患者は30歳代から50歳代の働き盛りの男性が多く、付き合いでお酒を飲む機会が多かったり、会社で責任のある立場で仕事をする方は運動する時間が確保できないようです。

(大山博司医師(両国東口クリニック理事長))

③ 痛風・高尿酸血症以外の健康上の悩み

「痛風・高尿酸血症のほかに健康上の悩みがあれば教えてください」との質問に対して、「血圧」と答えたのは23.0%、「首・肩・腰・関節・神経」は17.7%、「肥満・体重・血中脂肪等」は13.7%となり、痛風・高尿酸血症と高血圧を併発している人が多いことが推測されました。



自由回答；N=888、有効回答数=283

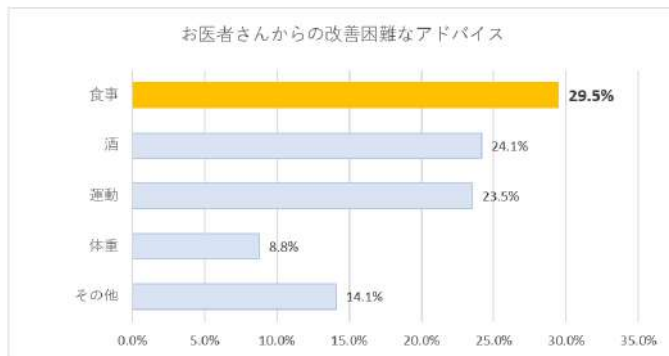
高血圧と高尿酸血症の併発は多いことが知られています。尿酸値はメタボリックシンドロームの先行指標とも言われているため、尿酸値管理を行うことでメタボリックシンドローム、ひいては生活習慣病の予防につながります。

(大山博司医師(両国東口クリニック理事長))

痛風・高尿酸血症患者の尿酸値管理の意識調査 <アンケート結果>

④ 医師のアドバイスのなかで実現や改善困難なもの

「お医者さんからのアドバイスのなかで、実現や改善が困難なこと・ものは何ですか？」との質問に対して、「食事の改善(量、時間、内容)」と答えたのは29.5%、「飲酒量、飲酒頻度の低下」は24.1%、「運動量、運動頻度の増加」は23.5%となり、メタボリックシンドローム予防にも役立つアドバイスでもありながら、実現や改善が困難な状況が浮き彫りになりました。



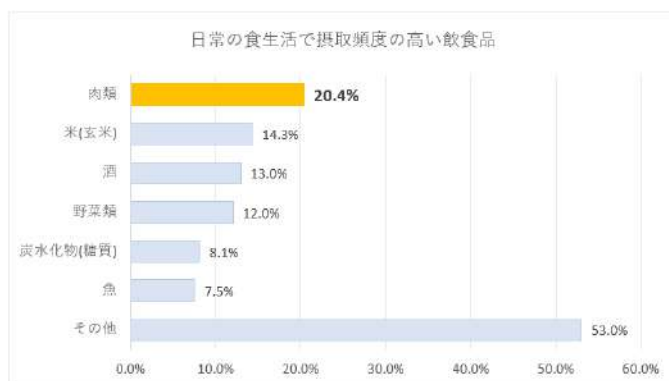
自由回答；N=888、有効回答数=319

もともと痛風・高尿酸血症患者は、食べる量や飲酒量が多く飲酒頻度も高い方が多いです。また運動量が少なく、運動頻度が低い傾向にあります。そのような方たちが生活習慣を変えることは、なかなか難しいのが現状です。

(大山博司医師(両国東口クリニック理事長))

⑤ 日常の食生活において摂取する頻度が高いもの

「日常の食生活において、摂取する頻度が高いものは何ですか？」との質問に対して、「肉類」と答えたのは20.4%、「米類」は14.3%、「酒類」は13.0%となり、痛風・高尿酸血症患者が好んで食べるものが浮き彫りになりました。



自由回答；N=888、有効回答数=1,140

<調査概要>

対象：両国東口クリニックに来院した20歳代～80歳代の痛風・高尿酸血症患者男女 888名

実施方法：来院時にアンケート用紙に記入

※複数回答可の設問では合計値が100%を超えるものがあります。

実施期間：2021年2月20日～3月31日